

文京区男女平等センター

Equality

2024
109号

誰もが平等の権利を持つ社会へ

特集 応援！理工系女子

Contents

- 2024年度事業報告
- 文京区ダイバーシティ推進担当から

令和6年度（2024年度）文京区男女平等センター事業 一覧

| 事業 | 内容 | 開催日 |
|----------------------------------|---|---------------------|
| 男女共同参画週間記念イベント | 映画「MIMOZA WAYS 1910～2020」 上映 & トーク・解説 | 6月8日 |
| 家庭生活への参画支援事業 ① ② ③ | ① 男のクッキング ～おつまみにもなる栄養を考えた献立～ | 6月22日 |
| | ②③ 夏休み企画 パパとクッキング | 7月27日・28日 |
| 社会参画支援事業 プラスワンセミナー | I 女性議員はなぜ増えないのか？ ～「一歩前に出る女性」を応援できる社会に～ | 7月13日 |
| | II 映画「主婦の学校」 自分の家しごと 自立した人生を楽しむために | 8月3日 |
| | III どうする災害時のトイレ対策！ ～自宅で・外出先で・避難所で～ | 9月7日 |
| | IV 応援！理工系女子 ～数学と音楽：創造の醍醐味～ | 12月7日 |
| 利用者懇談会 ① ② | ① 午後開催 ② 夜間開催 | ① 7月19日 ② 11月14日 |
| 区政を知る事業 ① ② | ① 夏休み企画 わたしが始めるSDGs ～びん・缶・ペットボトル・プラスチックのリサイクル～ | 8月8日 |
| | ② サイバー犯罪被害防止講座 ～ネット上の危険から身を守るための方法～ | 1月28日 |
| 登録団体企画助成事業 | 日本の経済・産業・女子教育 医学を支えた新札三人の偉人 | 8月18日 |
| 第39回 文京区男女平等センターまつり | ～きのう きょう あしたへ～ 平和な世界を、そしてジェンダー平等を!! | 10月19日・20日 |
| 配偶者等暴力防止啓発事業 | 私たちの声を聞いてください！ 児童虐待を経験した若者たちのドキュメンタリー映画 | 11月9日 |
| 女性活躍推進事業 | ジェンダー後進国に生きる私たち ～地域から何が変えられるのか～ | 2月8日 |
| 登録団体活動フェア | 「エアロ土筆会」「東京第一友の会文京方面」 「水引の会」 | 2月27日予定 |
| 男女平等センター利用者アンケート | 男女平等センター利用者によるアンケート | 1月下旬～2月上旬 |
| 広報誌 Equality “誰もが平等の権利を持つ社会へ” | 107号 女性差別撤廃条約と日本 | 9月13日発行 |
| | 108号 まつり特集 | 12月16日発行 |
| | 109号 応援！理工系女子 | 2月10日発行 |



Equality 107号掲載



Equality 108号掲載

男女平等センター×理科実験教室×女子大学の学生サークル

森 義仁 さん お茶の水女子大学理学部教授
文京区男女平等参画推進会議委員

私は、お茶の水女子大学環境科学倶楽部^①の顧問を務めています。この倶楽部は2003年から始めた学生サークルで、毎年15回前後理科実験教室を開催し、うち4回は男女平等センターで開催します。この活動がどのように「理工系女子の応援」に繋がるのかを紹介します。

お茶の水女子大学にはジェンダー研究所があります。そこで、科学とジェンダーに関する研究者の館かおる先生と小川眞里子先生と2003年ごろ出会いました。学生と一緒に理科実験教室の活動をしていることを伝えると、興味ある話をして下さいました。



森 義仁 さん

2000年ごろのEUにおける女性研究者政策についての報告書^②をご紹介して下さいました。産業界における女性科学技術者の現状と女性参画による期待です。今や、日本でも科学や技術への女性の進出による多様性の実現はよく知られた社会目標です。その登場は、2005年第二次男女共同参画基本計画12(1)「科学技術」の項目です。ここでは「多様性を確保し知的財産の創出と国際競争力の向上を図る」と述べられています。この日本での動きはEUの政策と無関係ではないでしょう。その関連項目は維持され、現行2020年の第5次計画第4分野に継承されています。

女性の進出のためには女子中高生の理工系進路選択の拡大が期待されます。日本の理工系進学割合を文科省の男女統計学校基本調査から調べると、理系の小分類である理学、工学、農学、保健の中の、理学と工学の女子割合で、2006年は13%、2024年は19%となります。この約20年に及ぶ進路支援による、この割合の増加の評価は別として、進路支援の継続は引き続き求められるでしょう。小川先生は2012年に「EUにおけるその成果と可視化された課題」^③を、2021年には「日本の現状と課題」^④を論じられており、日本の20年間の成果を議論する参考になります。

館先生と小川先生とお会いした当時、科学や技術の世界における女性のロールモデル、つまりキャリア形成に資する女性のための環境が不足していることを指摘されておりました。科学や技術の世界で等身大の女性の姿に接する機会を増やすことです。理科実験教室については、「理科実験＝白衣を着たおじさん」の固定観念を変え、一番経験あるからと言って、男性である私が「主任」講師になり前に立つのではなく、前に立つのは女性の学生であり、わたくしは受付を担当する支援体制側です（図1、白衣を着て前に立つ女性）。

注) ① <https://ochakan.1net.jp/>

②「科学技術とジェンダー：EUの女性科学技術者政策」、リュープザーメン＝ヴァイクマン、小川・飯島訳、明石書店（2004）

③「EUにおける女性研究者政策の10年」、小川眞里子、人文論叢（三重大学）29, 147（2012）

④「女性研究者支援の国際比較」、河野・小川編著、明石書店（2021）

科学や技術を自分のものにする時、その成り立ちを考慮すれば、豊富な実験的体験は不可欠です。その体験は「遊び」と言ってもよいかと思います。中等理科の学習のとき、その「遊び」の量により、その理科が自身の「遊び」に融合して一体となるのか、または、十分な遊びがないと覚えるだけになります。覚えるだけの理科は苦痛なものです。この倶楽部における実験方針は、伝統的な幼児教育における遊びの重要性にも繋がると考えます。自ら手を動かし遊ぶ（＝実験）とき、期待する結果をうまく得るために工夫や考案をします。そのこと自身がさらに、遊びを続ける気持ちを高め、さらに経験が増えます。「百聞は一見に如かず」の類推から、「百見は一試に如かず」と表現することができます。大学の海外協定校から来る、理系ではない留学生を誘い、一緒に活動します。例えその仕組みがすぐに十分理解できなくても、その実験に取り組む様子を見てみると、「百見は一試に如かず」であることがよく分かります（図2、奥に座る留学生二人）。

理科実験教室を教育センターではなく男女平等センターで開催することで、この企画が、男女共同参画基本計画に沿ったものであることを意識したいです。それは、当初、元区議の田中和子氏との懇談が契機でした。倶楽部と文京区女性団体連絡会と共同企画を実施しました。キャリア形成の企画ですから、ただ実験をするだけでなく後半は懇談会をする内容でした。大川、岡田、千代歴代会長をはじめ、会の各役職の方々とのこの企画は、「指導要領」ではなく、「基本計画」を拠り所にする協働作業でした。

最後に一言お礼を申し上げます。「基本計画」を意識した理科実験教室は、文京区女性団体連絡会とだけでなく、区内で様々な組織や部署とご一緒してきました。倶楽部は2025年9月にその歴史に幕を下ろします。長くお世話になり感謝の気持ちです。ありがとうございました。



図1 2009年の活動



図2 2024年の活動

プロフィール

森 義仁さん

1988年北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了薬学博士、1998年お茶の水女子大学理学部助教授、2003年アフガニスタン女性支援担当教員、2014年教授、現在に至る。同大で開発途上国女子教育協力センター長、いずみナーサリー施設長、附属幼稚園長、認定こども園長を兼務し、学外では文京区男女平等参画推進会議委員、男女共同参画学協会連絡会運営委員を務める。

「応援！理工系女子」～数学と音楽：創造の醍醐味～

講師 中島 さち子 さん

本セミナーは、内閣府男女共同参画局が実施展開する、「理工チャレンジ（リコチャレ）」理工系女子応援大使派遣に応募し実現しました。日本に根強い「女性は理数系が苦手」「女性には向いていない」などの社会通念—それを打ち破るような、理工系の最前線で活躍する中島さち子さんにその魅力を伝えていただきました。

「双方向でやりましょう！」—中島さんは会場との対話を交えながら会を進めます。数学オリンピック出場、大学サークル・ジャズ研など「好き」を突き詰めた学生時代、STEAM教育との出会いとその普及に尽力する現在、ワクワクする楽しいお話を聴くことができました。とりわけ印象深いお話を紹介します。

●数学と音楽の融合 数学も音楽も創造が鍵となる世界ですが、具体的にスクリーンやピアノを使って、二つが繋がっていることを伝えてくれます。リズムも、時代はデジタルから「ゆらぎ」（呼吸や内臓の動きのような）へと変化しており、それを象徴するようなチャンゴ（韓国太鼓）演奏家、チェ・ジェ Cholさんが紹介されました。歩きながらチャンゴを叩き、「体や呼吸のゆらぎから生まれるリズム」を探求しています。和太鼓集団「鼓童」も協奏しています。

また、「音は波であり、三角関数で表される」と、ピアノで波動を見せてくれました。ピアノで1音を叩き続けると、スクリーンに小刻みな一定の波が表れません。会場全体で拍手をすると、大きな音が出た時には、波の高さが突出した様子が映し出されました。会場からも「おお～」とどよめきが。



中島さち子さんプロフィール

ジャズピアニスト、数学研究者、STEAM教育者、メディアアーティスト
・大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー（学び・遊び・芸術・スポーツ）
・内閣府 STEM Girls Ambassador

●可能性広がるSTEAM教育～試行錯誤から生み出される多様性

中島さんはSTEAM教育者でもあり、経産省の「未来の教室 & “EdTech委員会”」の委員や実証プロジェクトを行ったり、「未来の教室」によるSTEAMライブラリー構想を提言・監修・参加したりするなど、国や自治体とも多彩な教育変革の活動を展開しています（下記参照）。

興味深かったのは、自由な発想で作る「スイッチ」のイベントでのお話。「水の中に塩を入れると電気がつく」スイッチ等、固定観念を打ち破る作品の数々に、「これが面白い！」と中島さん。「正解は一つではない」「効率を求める教育から、出来るまで試行錯誤、失敗を重ねることで多様な価値が生まれる、一人一人の創造性を引き出すことが大事」というSTEAM教育の根幹が熱く語られました。

●圧巻！リクエストに応え「5音・2タイトル」でピアノ即興演奏

会場から希望をとった5音「ラ、ド、ファ、B♭、レ」と、2つのタイトル「マイノリティー」「海」から、湧き出るイメージを即興で表現します。演奏が始まると、体に1音1音の力強さが響きます。会場全体でダイナミックで重厚な演奏を堪能しました。

終了後、アンケートでは「STEAM教育の幅広さ、自由さが素晴らしい」「即興演奏はこの音が瞬間に紡がれるのかと感動」との感想が寄せられ、「数学と音楽の融合」を体現した講演に、好奇心あふれる学びの大切さ、STEAM教育の醍醐味と可能性を感じました。

STEAM教育と経産省の取組み STEAMは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（人文社会・芸術・デザイン）、Mathematics（数学）の頭文字を取った言葉。経産省「未来の教室」は、「学びのSTEAM化」として子ども達のワクワクを中心起点に「知る」と「創る」の循環的な学びの実現を目指しており、「STEAMライブラリー」はそのための教材コンテンツや指導案などが一か所に集約されたオープンプラットフォームです。

中島さんの活動と提言 中島さんが設立した(株)steAmでは、経産省の実証事業として公立図書館メーカースペースの運営を実施。図書館に3Dプリンタ、マイコン、ロボティクスのツールを設置し、これらで遊び、つくる場を提供。中島さんは、市民が自由に創作するスペースを携え、2019年に「世界一の公共図書館」に選ばれたフィンランドのヘルシンキ図書館を紹介しながら、「日本にもメーカースペースを図書館、公園などにもっと作れるとよい」と提言します。

出典：steAm HP 経産省HP

令和6年11月9日(土)

13:30~

私たちの声を聞いてください！

児童虐待を経験した若者たちのドキュメンタリー映画

2024年11月9日に配偶者等暴力防止啓発事業として、「私たちの声を聞いてください！ 児童虐待を経験した若者たちのドキュメンタリー映画」を上映しました。上映後は、「REAL VOICE」の監督であり「任意団体ACHAプロジェクト」の代表である山本昌子さんを会場にお招きし、映画への思いや山本さんの活動についてお話を伺いました。

映画のあらすじ

日本各地の社会的養護を経験した子たちや、保護されることはなかった子たちの「REAL VOICE」を発信することを目的としたドキュメンタリー映画です。虐待の被害を経験した二人の女性の語りを中心に、虐待の被害を受けた子たちの心の叫びが収録されています。



取材中

監督である山本さんは、生後4か月から19歳まで乳児院、児童養護施設、自立援助ホームで育ちます。17歳の頃から、「児童養護施設で育っても、たとえ親に育てられなくても、幸せになれる人間がいることを多くの人に知ってもらいたい」という思いで、当事者発信を続けておられます。山本さんは、児童養護施設出身で成人を迎える子たちに振袖を通して「生まれてきてくれてありがとう」を伝えるボランティア団体を立ち上げ、代表を務めていましたが、コロナ禍で活動が一時停止してしまいます。そんな中、コロナ禍で、誰とも話すことができず、親に頼れずに孤立してしまっている若者からのSOSを受け、オンラインの居場所づくりや、SNSを通じたのコミュニケーションを行い、全国450人の若者と繋がります。支援を通して、虐待の後遺症の深刻さ、その後の人生に与える影響を目の当たりにし、後遺症について、もっと多くの人に知ってもらいたいという思いから、「REAL VOICE」が製作されました。



本映画では、コロナ禍に繋がった若者たちの元に、山本さん自身が赴き、「ライフストーリーワーク」と呼ばれる自身の生い立ちを振り返り、整理する時間を持ち、ひとりひとりの言葉を引き出しました。また、「身近に虐待に遭っていた・遭っている子がいるかもしれない」と映画を観る人に考えてほしいという思いから、全地域の子を映すことにこだわったそうです。

虐待は、身体だけでなく、心も深く傷つけ、被害者の人生に大きな影響を与えます。虐待は今この瞬間もどこかで起こっています。虐待が実際に起こっているということを知り、正しく理解するとともに、「他人事」と考えずに、周りに目を向け、ひとりひとりが見守っていくことが、誰かを救う一歩になります。

(高山)

どうする災害時のトイレ対策！

令和6年9月7日(土)

14:00～

～自宅で・外出先で・避難所で～

講師 高橋 聖子 さん (インクルラボ代表)

災害時、断水、停電などライフラインが途絶えた時に「待ったなし」で迫ってくるのがトイレの問題です。大きな災害が発生すると、トイレは最も影響を受けやすい部分です。電気・水道・下水にトラブルが起こるとトイレは使えません。ライフラインの復旧まで待たなければなりません。

トイレを我慢する、飲まない、食べない →免疫力の低下、感染症など、体への影響は深刻です。

せっかく命をつないでも環境の悪化で体調を崩す等、間接的な影響で命を落とす「災害関連死」につながります。昨年1月の能登半島地震でも発災直後から、その後の避難生活のなかで大きな問題になりました。

自宅での備え、避難所などでの避難生活でも安心して使えるトイレ対策が必要です。現場経験豊富な講師が、具体的にわかりやすく、実技も交えて語って下さいました。

健康に直結するトイレ、できるだけ普段に近い環境を整えることが必要です。

①家庭での備え

携帯トイレ (袋状)・簡易トイレ (組立式)

備蓄の目安：5回 (1日の平均利用回数) × 7日分 × 家族人数

4人家族では…… 5回 × 4人 × 7日分 = 140枚

②避難所におけるトイレの確保

子ども、高齢者、障害者を含む被災者全員が安全に使うことができること、安全性、衛生・快適性も必須です。

仮設トイレ、マンホールトイレ等、仮設トイレは設置まで日数がかかります。段差があり、高齢者や障がい者等には使用は難しいです。



凝固剤の投入



災害においては、性被害や性暴力も起きやすくなります。女性専用スペースの設置、乳幼児のいる家庭への配慮なども必要です。多様な人々が、安心・安全で快適な避難所生活を送ることができるよう、環境を整えることが大切です。誰にも優しい、環境を目指しましょう。

参加者の方からは、「携帯トイレ」の実演が良かった等の意見が多数寄せられました。日頃の訓練の大切さ、相互にコミュニケーションを取ることの必要性を学ぶことができ大変有意義なセミナーでした。

プラスワンセミナーⅠ

I 女性議員はなぜ増えないのか？

～「一歩前に出る女性」を応援できる社会に～

令和6年7月13日(土) 10:30～

講師：濱田 真里さん

• Equality 107号掲載

プラスワンセミナーⅡ

II 映画〈主婦の学校〉 自分の家しごと

令和6年8月3日(土) 13:30～

自立した人生を楽しむために

上映後 グループトークを行いました。

• Equality 107号掲載

家庭生活への参画支援事業

男女平等の実現には、男性の家庭生活への参画が不可欠です。その観点から企画しています。

① 男のクッキング

—おつまみにもなる栄養を考えた献立—

令和6年6月22日(土) 10:00～13:00

講師：古川 協子さん (料理研究家)

• Equality 107号掲載

②③ 夏休み企画 パパとクッキング

令和6年7月27日(土)・28日(日) 10:00～13:00

講師：古川 協子さん (料理研究家)

• Equality 107号掲載

令和6年度 第2回利用者懇談会

令和6年11月14日(木)
18:30~

利用者懇談会は利用者の方々のご意見を直接聞くことのできる場として、また、センターが男女平等参画推進の拠点であることを再確認する場としても位置付けられているため、センターのサービスに対するご意見の他、男女平等についてのご意見もいただけるよう工夫を行っています。

当日の進行は、職場でのハラスメントを題材としたDVD、「共に生きる人権シリーズ、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）が招くセクシャルハラスメント」をご覧いただいた後に、グループによる意見交換を行っていただきました。

意見交換をする議題として、(1)センターまつりについて、(2)来年度（休館中）事業について、(3)再来年度（再開後）事業について、そして、その他と4点を提示し、グループごとに意見交換、発表が行われました。「センターまつりにおける講演のネット配信について」、「再開後の情報提供について」等様々な意見が発表され、これに対し、総務部ダイバーシティ推進担当課長、センター長、センター事務長より回答が行われ、終了となりました。

今回の懇談会は、参加者の方々のご要望等、再開後のセンター運営に参考となるご意見が多く、有意義で貴重な時間となりました。



登録団体企画助成事業

日本の経済・産業・女子教育

令和6年8月18日(日)
14:00~

医学を支えた新札三人の偉人～渋沢栄一・津田梅子・北里柴三郎～

講師 関賢二さん（東洋大学地域連携「白山哲理塾」塾長）

本事業は、「翔の会」主催（文京区女性団体連絡会共催）により、開催されました。時おりユーモアを交えての熱弁に、会場は笑いが絶えませんでした。主催者側からの感想をお伝えします。

翔の会として2回目の企画事業でしたが、新札の発券は世間の関心の強さもあり、ご参加の皆様で満席の成果をいただきホッとしました。渋沢栄一先生はテレビドラマで良く知られていますが、北里柴三郎先生の研究に対する迫害にも似た苦難を乗り越えての成果や、津田梅子先生の女子教育への情熱・意志の強さを同じ女性として誇らしく思いました。

関賢二先生の語り口はひょうひょうとして親しみやすく、豊富な知識でのお話と、緻密に分類された資料のお陰で考えながら、時に笑い声も聞かれて楽しく拝聴しました。皆様にもご満足いただけたかしらと思いましたがいかがでしょうか？ ボードに表題や三偉人の顔写真を飾り、会場を明るくしていただくなど、文京区女性団体連絡会の皆様の細やかなお心配りを心より感謝申し上げます。お手伝いを下さいました皆様ありがとうございました。



翔の会 代表 五島 珠江

〈参加者の声〉

文京区とのつながりも話して下さり大変興味深く、楽しく伺うことができました。生き生きと「時代」のなかで生き抜いた人々を身近に感じました。

①夏休み企画 わたしが始めるSDGs!!

令和6年8月8日(木)
14:00~

～びん・缶・ペットボトル・プラスチックのリサイクル～

講師 戸部 昇さん ((株)トベ商事 代表取締役会長)

私たちが目指すのは、地球の資源を大切に、環境にやさしい社会をつくることです。

環境を守るために、ごみを減らし、資源を再利用して、むだにしない社会へ変えていくために、私たちは何をしたらよいのでしょうか？資源ごみ(びん・缶・ペットボトル)のリサイクル事業を長年推進している戸部さんから、映像や手にとって見られるように工夫された資料から分かりやすくお話いただきました。

○世界で取り組む5大地球環境問題は、①地球温暖化、②海洋汚染、③水質汚染、④大気汚染、⑤森林破壊です。どれも深刻な状況ですが、**海洋汚染**について詳しく紹介がありました。「カリブ海に浮かぶ大量のプラスチックごみ」や「海に浮かぶプラごみを誤食して死に至る海鳥」の写真は、とてもショッキングでした。

○リサイクル3R、リデュース(ごみを減らすこと)、リユース(ごみにせず再使用すること)、リサイクル(ごみにせず再資源化すること)の話は、諸外国の取り組みの例もあり、びんなどの「ごみにしないで再使用する」リユースが大事なものと認識できました。

幼児や小学生のために分かりやすく工夫されている紙芝居は、参加した子どもにもおとなにも大変好評で「紙芝居や動画がよかった」「やらなければ変わらないことを、やっていこうと思います。」(8才)との声がありました。

大切な地球の生命を守るために、自分のできることを考える有意義なセミナーでした。

文京区では、令和7年4月からプラスチックの分別回収が始まります。

大変かも？でも、住み続けられる環境づくりは家庭の中から始まります。私たちのことから始めましょう。



熱心に語る講師



紙芝居

②「あなたのスマホが狙われている！」

令和7年1月28日(火)
14:00~

警視庁サイバーセキュリティ対策本部と富坂警察署の方を講師にお招きし、「サイバー犯罪被害防止講座」を開催しました。文京区においても昨年の特種詐欺被害が74件に及ぶ現状から、危機管理課の協力のもと開催の運びとなりました。

●架空料金請求詐欺、フィッシング詐欺ともに過去最高に

セミナーは、スクリーンでのポイント解説、再現動画を駆使して分かりやすく犯罪の実態と防止策を教えてくださいました。スマホ詐欺には、大きく2つあり、メールやショートメッセージを使用。



🔥 **架空料金請求詐欺** = 利用していない架空の料金を請求 例：携帯料金、公共料金等

🔥 **フィッシング詐欺** = 偽サイトに誘導、個人情報、クレジット情報を盗む 例：アマゾン、えきねっと等

令和6年の件数はそれぞれ5,198件、12万件と過去最高を記録しています(警視庁)。両者の共通点は、実在する会社、役所、団体になりすまし、巧妙な語り口や本物そっくりで作られたサイト等で騙すことです。さらに、「至急」「訴訟、法的手続き」等の文言で不安を煽ります。一旦誘導されると見分けるのが容易ではありません。また、電子マネーカードで支払わせることも多くなっています。

●不安な時は1人で判断せず、相談を！

対策としては心当たりのないもの、微細であっても不審に思う点があれば、「無視する」「指示に従わない」ことが必要であり、1人で判断せず、まずは家族など周囲の人、区の相談窓口や警察に相談することが大事だと分かりました。

会場からは「本物そっくりの偽サイト、見分け方は?」「宅配業者にマイナンバーカードの提示を求められたことがあり心配」等、熱心な質疑応答が行われ犯罪防止への認識を深めることができました。

不安な時は
警察相談専用電話
#9110
へお気軽にご相談
ください

女性活躍推進事業

講演会

**ジェンダー後進国に
生きる私たち**
～地域から何が変わえられるのか～

講師 **浜田 敬子** さん
ジャーナリスト、元AERA編集長
『羽鳥慎一モーニングショー』などコメンテーター

日時 2025年 **2月8日(土)**
14:00~15:30 (開場13:30)

会場 **文京区男女平等センター 研修室A**

● 浜田敬子さん プロフィール

ジャーナリスト、元AERA編集長
「羽鳥慎一モーニングショー」
「サンデーモーニング」のコメンテーターや、
ダイバーシティなどについての講演多数
著書：『働く女子と罪悪感』
『男性中心企業の終焉』
『いいね！ ボタンを押す前に』（共著）

登録団体活動フェア

令和7年2月27日(木)
13:30~開催予定

当センターが文京区の男女平等を推進するための区の施設であることを利用者の皆さまに認識していただき、登録団体の相互の交流を促進することを目的として開催しています。

日頃から活動が続けらっしゃる登録団体の中から、今年度は3団体の皆さまに発表していただきます。

1 東京第一友の会文京方面

東京第一友の会文京方面は羽仁もと子が創刊した婦人之友の愛読者の集まりです。衣、食、住、家計、子どものことなど年代を超えて学び合っています。羽仁もと子が考案し出版した120年続く家計簿は生活の指針になっています。

物価高の昨今、予算生活の大切さ、家計のあり方などを考えるヒントをお伝えします。



2 エアロ土筆会

区民の健康と介護予防、認知症予防のために活動を始めて20年。シニア向けエアロビクス「ダイバビク」を楽しむ会です。明るく楽しく行うことで、体力的精神的に効果が得られる運動プログラムを実践しています。週1回体を動かし継続することで、「元気で長生き」を目指します。シビックセンター4階 シルバーホールにて毎週1回水曜日開催しています。



3 水引の会

私たち「水引の会」は、水引で季節に飾る物や身に着けるアクセサリ等を製作して楽しむ会です。

一昨年、昨年と、お世話になっている男女平等センターのセンターまつりに参加して、皆さまとのお縁を結び、会のメンバー共々刺激をいただきました。日本古来からの水引を通して、楽しく人と人を結ぶことが出来ることに、今後より積極的になりたいと思っております。



出前講座「デートDVとその防止に向けてできること」を実施しました！

日時：令和7年1月14日(火) 午前10時30分～11時30分

会場：文京区青少年プラザ (b-lab)

講師：染矢 明日香 氏 (NPO法人ピルコン理事長)

恋人同士の暴力である「デートDV」について、文京区青少年プラザ (b-lab) に講師を派遣し、出前講座を実施しました。デートDVの概要をはじめ、支援者としての若者との関わり方についてお話しいただきました。グループディスカッションや質疑応答では積極的に意見を交換する場となり、職員自身の身近にあるデートDVや、日頃の中高生とのかかわりの中で気を付けることについても考えることができました。

参加者からは、子ども自身がデートDVに気が付くためにはどうしたらよいのか、相談を受けた際にどこまで踏み込んで相談に乗ったらよいのかなどの具体的な質問が上がりました。こうした質問に対し講師からは、職員同士や子どもとのコミュニケーションで、バウンダリー（心と体を守る境界線）を意識し、健康的なコミュニケーションを心がけることが大切であることをお伝えいただきました。また、デートDVは異性間のカップルだけではなく同性同士でも起こりうるため、性的マイノリティのアウティングにも注意しながら、相談機関等と連携していくことの必要性についてのお話しもありました。

引き続き講師の派遣先を募集しています！

デートDVは、殴る、蹴るなどの身体的暴力だけでなく、無視や束縛、暴言などの精神的暴力も含まれ、交際経験がある20代のうち5人に1人が被害に遭っているともいわれています。

デートDVを防止するために、専門的な知識を持ち、講演実績がある講師を派遣します。より良い人間関係を築くために、ぜひご活用ください！

詳しくは右のQRコードから区HPをご覧ください。



▲区HP

第5回 文京SOGIにじいろサロン

「どうなる婚姻平等？どう守る同性パートナーの人権」を開催しました！

日時：令和7年1月26日(日) 午後2時～4時

会場：オンライン

ゲスト：原 ミナ汰 氏 (NPO法人共生社会をつくる性的マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事)

特別ゲスト：上杉 崇子 氏 (弁護士 (TOKYO大樹法律事務所))

内容

婚姻の平等を求める「結婚の自由をすべての人に」東京訴訟の弁護士である上杉さんから、これまでの訴訟の流れや東京高裁判決（2024年10月30日）で進展したポイント、訴訟に関わった経緯等についてお話しいただきました。婚姻の平等が実現することで、セクシュアルマイノリティの人権が尊重され、生活する人の安心・安全・活力を増すことに繋がることもお伝えいただきました。



▲区HP

〈参加者からのご感想〉

- ・訴訟の判決など、ニュースでしか見聞きしてなかったのですが、今回弁護士の方の話を聞くことで理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・同性婚訴訟（判決）について、よくわからないと思っていたことを聞くことができてよかった。また、各地の判決の比較一覧の資料などを見せてもらうことで、判決の内容が可視化できたように思われた。

文京区男女平等センター休館のお知らせ

当センターは改修工事のため、下記の期間、休館いたします

〈休館期間〉

令和7年3月1日～令和8年5月末まで（予定）

ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

改修工事後の、内観のパース図です（色等についてはイメージです）。



●利用者の声

①外から明るく見えるように工夫してほしい

玄関、床、天井、壁などを明るくしてほしい

- 入口まわりは、植栽、舗装サイン表示を一新し、明るい印象へ
- 自然光を取り入れるとともに、木材による温かみのある空間へ
- ロビーと研修室Aの一体利用が可能

②空調の使い勝手を改善してほしい

- 空調設備を全面的にリニューアルし、部屋ごとの温度調節が可能に
- 研修室Aなどは冷暖房とも通年で使用可能

③防音性能を高めてほしい

- 研修室A、研修室Bは、遮音性能の高い間仕切り、防音性の高い扉などの設置による防音機能の向上

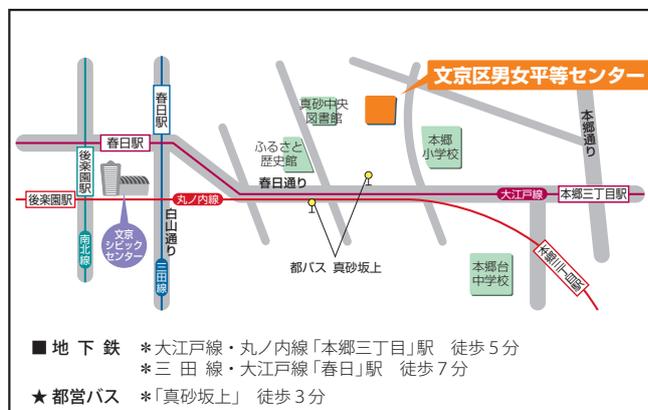
●その他改修内容

- 多くの人が立ち寄りたくくなるようなロビーの配置
- 正面玄関から隣接図書館への通路空間
- 交流コーナー・展示スペースの設置
- バリアフリートイレの増設、温水洗浄・暖房便座の取り付け
- Wi-Fi設備（公衆無線LAN）の設置
- 利用予定団体の表示モニターの設置
- マンホールトイレの新設等防災機能の向上

編集後記

「応援！理工系女子」を特集いたしました。「女性は理工系に向いていない」等のバイアスが未だに根深いです。女子中高生に、理工系に関心を持ち学ぶ意欲を持ってもらう、科学や技術の世界で活躍する女性のロールモデルに接する機会を増やす等も必要です。「応援」が、「理工系分野への女性参画の推進」への第一歩となります。

表紙は「バードオブパラダイス」、日本では「極楽鳥花」とも呼ばれます。とてもカラフルでハワイらしい花です。花ことばの1つは、「輝く未来」です。



2025年2月10日 発行 文京区女性団体連絡会会長 千代和子

編集担当 広報部 増田・清水・高橋・高山・本山

〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号 Tel.03-3814-6159 Fax.03-5689-4534

文京区男女平等センターは文京区女性団体連絡会が指定管理者として管理・運営しています。